

# 日本音楽表現学会

## 第3回(アクアブルー)大会要項

期 日：2005年7月2日(土)～3日(日)

会 場：静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ  
(静岡市駿河区池田79-4)

<ごあいさつ>

## 静岡の山と海と空へようこそ

日本音楽表現学会  
第3回<アクアブルー>大会  
実行委員長 松下 允彦

7月1日、本年も富士山の山開きを迎えました。その雄大な姿と南アルプスの碧い山々を遠景に茶畑の新緑が映え渡るこの季節は、静岡の一年で最も新鮮でエネルギーギッシュな雰囲気をもたらします。深山から流れ出た沢水が安倍川となり、それを包み込む駿河湾の青い海と、真っ青に晴れ渡った空とが溶け合ったアクアブルーの色彩です。

静岡大学の会員6名からなる実行委員会は、音楽表現を学問的に追及するという斬新な試みや活発なディスカッションの場として、初夏のアクアブルーに浮かぶ大きな船・グランシップを会場に選び、企画運営にあたってきました。

参加者の規模や発表内容が予測できない段階では雲を掴むような不安にも駆られました。予想をはるかに超える14の研究発表、2つのワークショップにパネルディスカッションという嬉しい事態になりました。このように大規模になったにもかかわらず、会長、事務局長、理事、実行委員間のE-mailによる連携は大変心強く、瞬く間に仕事が片付いていきました。

今回は、スイス出身の筑前琵琶奏者であり音楽学研究者のシルヴァン・ギニャール氏をお迎えして、筑前琵琶の演奏を交えての基調講演をしていただきます。ショパンのワルツ研究で音楽博士号を取得された後、来日して筑前琵琶演奏を習得されたギニャール氏のお話は、東海道の間際に位置し古くから東西文化の交差点でもあった当地・静岡にふさわしいと考えました。

シンポジウムでは実行委員会の企画として、茶歌の再創造と現代的演奏をテーマに、パネリスト、参加者の方々を交えての市民参加型再創造の提案と実践という新しい試みが展開されます。

4月より政令指定都市となった新しい静岡市での本大会が実り多いものとなり、音楽表現学会がますます発展することを願っております。末筆になりましたが、物心両面でご支援頂いた多くの皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

# 日本音楽表現学会第3回<アクアブルー>大会プログラム

7月2日(土)

12:00 受付開始

13:00 開会

オープニング演奏 静岡大学生作詞作曲演奏による「空と海」

ごあいさつ 実行委員長 松下 允彦

13:15~14:00 基調講演 シルヴァン・ギニャール氏

## 筑前琵琶の表現と技法—超自然描写をめぐって—

(プロフィールと要旨をp.4に別掲)

14:00~15:30 シンポジウム

## 静岡の茶歌再創造と現代的奏演

(要旨をp.4に別掲)

16:10~17:10 総会

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 報告
  - (1) 2004年度事業報告
  - (2) 2004年度会計報告・監査報告
  - (3) その他
4. 協議
  - (1) 規定等改正案について
  - (2) 2005年度事業計画(案)について
  - (3) 2005年度予算(案)について
  - (4) 2005-2006年度編集委員会委員について
  - (5) 第4回大会開催候補について
  - (6) その他
5. 閉会の辞

18:00~20:00 懇親会 於：天神の湯 6F 「天満」

7月3日(日)

9:00 受付開始

9:15~10:45 研究発表 Room A, B, ワークショップ Room C

11:00~12:30 研究発表 Room A, B, C

13:30~15:00 研究発表 Room A, B, パネルディスカッション Room C

15:15~16:45 ワークショップ Room C

16:50 終了・解散

「空と海」 (作詞/The Pacific Eeles 作曲/寺崎 庸)

歌・ピアノ演奏： 寺崎 庸 (静岡大学大学院教育学研究科音楽教育専攻作曲専修)

2003年夏、The Pacific Eels がロック・バンドを編成した際に用意した典型的なバラード・ソングです。メンバーと共に「静岡」を表象する語を組み合わせ、そこからイメージを膨らませて曲を仕上げました。ピアノ独奏曲《s&s》(1999)を下敷きに、以前から暖め続けてきたポップ・ソングのメロディをサビに用いています。(寺崎 庸 記)

## 7月3日研究発表, ワークショップ, パネルディスカッション プログラム

### 時間帯Ⅰ 9:15~10:45

Room		司会: 吉田 秀文 今 由佳里
A	1. 身体動作を伴った子もり歌の表現学習 2. 歌唱目的と歌唱表現の関係について—子どもへの歌いかけを例に—	加藤 晴子
Room		司会: 後藤 丹 河本 洋一 茂木 美和
B	1. 《最後の歌》の研究 2. 日本におけるルニエのハーブ・メソッドの有効性について	
Room		司会: 小林 荃子
C	1.2 ワークショップ: 楽譜から音楽を創り出そう! —話声表現と音楽表現の関連性に着目して—	谷口 雄資

### 時間帯Ⅱ 11:00~12:30

Room		司会: 桂 博章
A	3. 子どものイメージング活動を核に据えた授業実践の試み—イメージングを音楽における基礎・基本の力, そして音楽が与していける生きる力と措定して—	新山王政和
	4. 師範学校における鑑賞指導 —『標準師範学校音楽教科書』とレコードの分析を中心に—	鈴木慎一郎
Room		司会: 木下 千代 山田 啓明
B	3. ピアノ演奏におけるブラインド・タッチ習得に関わる考察 4. 電子オルガン副科学生によるピアノ協奏曲コンサート —スコアリーディング奏法によるアンサンブルの試み—	阿方 俊
Room		司会: 小畑 郁男
C	3. ベートーヴェン後期作品群への過渡期的作品の考察 —ピアノソナタ作品101とチェロソナタ作品102-2を通して— 4. 三善晃の音楽に於ける意味生成の契機としての差異と, 音楽的時間のあり方	深井 尚子 阿部亮太郎

### 時間帯Ⅲ 13:30~15:00

Room		司会: 杉江 淑子
A	5. 国境を越えて変容する音楽—タイにおける喜納昌吉「はな」を事例に—	阿部 祐治
	6. フラットシンギングから<三味線の糸の上に乗る>シャープシンギングへ—視覚フィードバックによる治療の事例的研究—	村尾 忠廣
Room		司会: 菅 道子
B	5. ミュージカル活動における指導体制改革とその効果 —拓殖大学北海道短期大学の事例から— 山田克己, 岡 健吾, 川端美穂, 土門裕之 6. ミュージカル活動の「人間力」育成効果—学生への質問紙調査の分析から— 川端 美穂	
Room		安田 香 佐野 仁美 高久 暁 阿部亮太郎
C	5.6 パネルディスカッション: 作曲家に見る異文化受容	

### 時間帯Ⅳ 15:15~16:45

Room		司会: 山田 貢
C	7.8 ワークショップ: モーツァルトのヴァルター・ピアノによるモーツァルト—ファンタジーKV475の演奏解釈—	山名 敏之